

領域	現行計画開始時における課題	目的及び対策	主な施策、取り組み	評価	課題	次期計画の取組方針案	
基本方針1 健全な水・物質循環の構築 (水質改善に係る取り組み)	<ul style="list-style-type: none"> 伊勢湾のCODの環境基準の達成状況は約44%前後(H18)である。 伊勢湾のCODは、伊勢湾(狭義)の湾奥部が高く、三河湾では湾中部及び湾奥部が高い。 赤潮や苦潮(貧酸素水塊)の発生が蔓延化。また、その汚濁機構が解明されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 陸域からの流入汚濁負荷の削減 	<ul style="list-style-type: none"> 汚水処理施設の整備(下水道事業、農業集落排水等の推進) 下水道の排出負荷量を規制 森林・農地用地等の保全・整備(間伐等の森林保全・整備、環境保全型農業の推進等) 	<ul style="list-style-type: none"> 「河川BOD環境基準達成率の推移」から、河川の水質は改善された。 陸域における汚濁負荷削減に関する取組みにより、汚濁負荷量は着実に減少していると推察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 伊勢湾全体におけるCODの環境基準は達成されておらず、環境基準達成率は約50～69%(H19～H27)で推移しており、また、赤潮や苦潮(貧酸素水塊)発生回数は変動はあるものの概ね横ばい程度で推移しており、明確な改善傾向は確認されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 現計画の取り組みとモニタリングを継続する。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 海域の底質改善 	<ul style="list-style-type: none"> 深掘れ跡の埋め戻し、覆砂 	<ul style="list-style-type: none"> モニタリング結果から、事業実施箇所での海域の底質改善を確認した。 深掘れ跡の埋め戻し、覆砂により海域の底質改善が期待できる。 			<ul style="list-style-type: none"> 伊勢湾シミュレーターを用いて、効率的な干潟・浅場の造成、深掘れ跡の埋め戻しを計画的に取り組むとともに、モニタリングを継続する。また、苦潮(貧酸素水塊)を改善するための施策を検討する。 栄養塩管理の必要性について検討を進める。
		<ul style="list-style-type: none"> 干潟・浅場の造成による水質改善 	<ul style="list-style-type: none"> 干潟・浅場の造成 	<ul style="list-style-type: none"> モニタリング結果から、事業実施箇所での水質改善を確認した。 干潟、浅場の造成により水質改善が期待できる。 			
		<ul style="list-style-type: none"> 苦潮(貧酸素水塊)の発生メカニズム解明に向けた調査研究 	<ul style="list-style-type: none"> 伊勢湾シミュレーターの開発 	<ul style="list-style-type: none"> 伊勢湾シミュレーターが実用化され、苦潮(貧酸素水塊)の動きが予測可能となった。効率的な干潟・浅場の造成による改善効果の予測が可能となった。 伊勢湾シミュレーターの検討結果から、伊勢湾の環境を改善させるためには、「生物生育場となる干潟、浅場、藻場の再生・保全」及び「流入負荷量の適切な設定・管理」が重要であることが明らかになった。 			
基本方針2 多様な生態系の回復 (生態系の回復に係る取り組み)	<ul style="list-style-type: none"> 干潟・浅場・藻場の良好な生物の生息・生育空間が沿岸の開発等により減少している 漁獲量の推移は、愛知県では、1980年(S55)頃をピークに、三重県(伊勢湾海域)では、1985年(S60)頃をピークにいずれも減少傾向にある 赤潮や苦潮(貧酸素水塊)の発生により漁業被害が発生。また、その汚濁機構が解明されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生物の生育・生息場の創出 	<ul style="list-style-type: none"> 干潟・浅場の造成 	<ul style="list-style-type: none"> モニタリング結果より、事業実施箇所での底生生物(貝類等アサリ)が増加した。 干潟、浅場の造成により、底生生物(貝類等アサリ)の漁場としての機能が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 伊勢湾全体の漁獲量は、現時点で明確な増加傾向を確認するに至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 伊勢湾シミュレーターを用いて、効率的な干潟・浅場の造成を計画的に取り組むとともに、モニタリングを継続する。また、苦潮(貧酸素水塊)を改善するため、新たに環境基準に位置付けられた底層DOの改善施策を検討する。 栄養塩管理の必要性について検討を進める。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 苦潮(貧酸素水塊)の発生メカニズム解明に向けた調査研究 	<ul style="list-style-type: none"> 伊勢湾シミュレーターの開発 	<ul style="list-style-type: none"> 伊勢湾シミュレーターが実用化され、苦潮(貧酸素水塊)の動きが予測可能となった。効率的な干潟・浅場の造成による改善効果の予測が可能となった。 伊勢湾シミュレーターの検討結果から、伊勢湾の環境を改善させるためには、「生物生育場となる干潟、浅場、藻場の再生・保全」及び「流入負荷量の適切な設定・管理」が重要であることが明らかになった。 			
基本方針3 生活空間での憩い・安らぎ空間の拡充 (人と水のふれあいの機会の促進に係る取り組み)	<ul style="list-style-type: none"> 港湾における埋立等の開発、海岸堤防・高潮堤防等の整備により、人々が水際に近づきにくくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 人と海とのふれあいの場・機会の創出 	<ul style="list-style-type: none"> 臨海部の緑地の整備「みなとオアシス」等ふれあいの場の創出 	<ul style="list-style-type: none"> 取り組みが着実に実施されている。 市民とふれあいの場が戻りつつある。 	-	<ul style="list-style-type: none"> 現計画の取り組みとモニタリングを継続する。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 水際線・緑地・景観の形成 	<ul style="list-style-type: none"> 環境・利用に配慮した堤防・護岸の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 取り組みが着実に実施されている。 伊勢湾や周辺離島の沿岸などで依然として漂着ごみが多い地域が見られるもの、市民は伊勢湾がきれいになりつつあることを感じるようになっており、市民ひとり一人の環境意識が向上した。 			
	<ul style="list-style-type: none"> 海面や沿岸部にごみが浮遊・漂着し、海域環境を悪化させている。 台風等による出水後には流木が海面や沿岸部に多く浮遊・漂着しており、小型船舶の航行や漁業等に問題を引き起こしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 浮遊・漂着ごみ、流木の対策 	<ul style="list-style-type: none"> 浮遊ゴミの回収 多様な主体による清掃活動 一斉モニタリングによる水質・生物の監視 	<ul style="list-style-type: none"> 伊勢湾や周辺離島の沿岸などで依然として漂着ごみが多い地域が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 現計画の取り組みとモニタリングを継続する。 市民団体との連携を強化し、積極的に支援する。 		

健全で活力ある伊勢湾の再生に向けて

～伊勢湾再生行動計画（二期計画）の策定～

1. 伊勢湾再生の取り組み

伊勢湾流域圏の急速な経済発展に伴い、水質汚濁の慢性化、水産業、生態系、景観に影響が生じた伊勢湾の再生を目指し、関係省庁及び地方公共団体等14機関で構成する「伊勢湾再生推進会議」は、伊勢湾再生に向けた取り組み方針を「伊勢湾再生行動計画」にて共有し、各機関は汚濁負荷の削減、生態系の回復、ゴミの軽減等に取り組んできた。

（行動計画の目標）

「伊勢湾の環境基準の達成を目指し、多様な生物が生息・生育する、人々が海と楽しく安全にふれあえる、美しく健全で活力ある伊勢湾の再生」を目指す。

（主な取り組み）

○陸域での対策

- ・ 汚水処理施設の整備、下水の高度処理、森林の整備、環境保全型農業の推進による汚濁負荷の削減
- ・ ゴミ等の回収

○海域での対策

- ・ 干潟、浅場、藻場等の造成
- ・ 覆砂による底質改善
- ・ 深掘れ跡の埋戻し
- ・ ゴミ等の回収
- ・ 「みなとオアシス」等ふれあいの場の創出

○市民・企業との協働

- ・ 一斉モニタリング調査による水質・生物の監視
- ・ ゴミ清掃活動（クリーンアップ大作戦）
- ・ 森林づくり

○調査研究

- ・ 苦潮（貧酸素水塊）の発生メカニズム解明

2. 一期計画（平成19年～28年）の成果

- 陸域からの汚濁負荷削減により河川の水質が改善され、干潟、浅場、藻場等の造成によって生物種や個体数の増加等において改善がみられた。
- 市民は伊勢湾がきれいになりつつあると感じるようになり、海とのふれあいも戻りつつある。また、市民一人ひとりの環境意識が向上した。
- 伊勢湾シミュレーターが実用化され、苦潮（貧酸素水塊）に対して効果的な手法やその実施箇所・規模の検討が可能になった。また、伊勢湾シミュレーターを用いた検討結果から、伊勢湾の環境を改善させるためには「生物生育場となる干潟、浅場、藻場の再生・保全」及び「流入負荷量の適切な設定・管理」が重要であることが明らかになった。

3. 二期計画のポイント

- 伊勢湾シミュレーターを活用し、干潟・浅場・藻場等の造成、深掘れ跡の埋戻しに計画的に取り組み、水質と生態系の回復を目指す。
- 苦潮（貧酸素水塊）を改善するため、新たに環境基準に位置付けられた底層DOの改善施策を検討する。また、栄養塩管理の必要性について検討を進める。
- 市民・企業との協働を強化し、積極的に支援する。
- 伊勢湾再生の取り組みを長期的視点で継続する。

以上